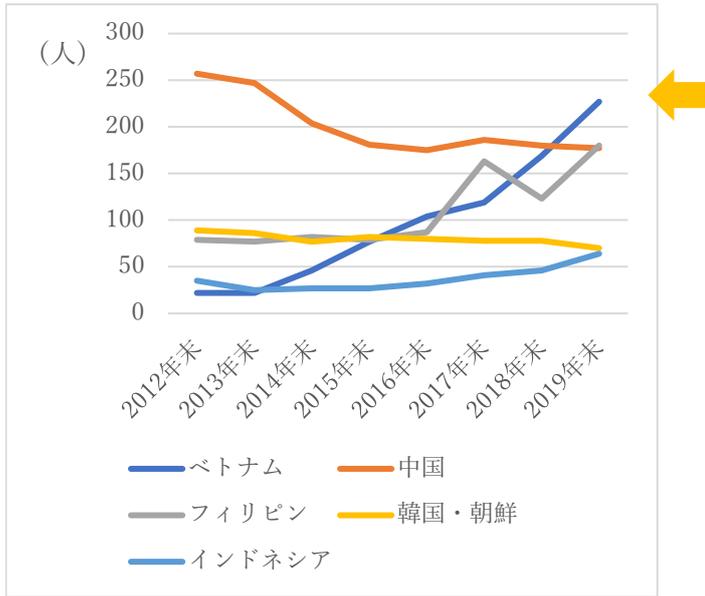


2019年度「外国人住民に関する調査研究」事業報告書（概要）

（豊岡市・神戸大学共同研究）

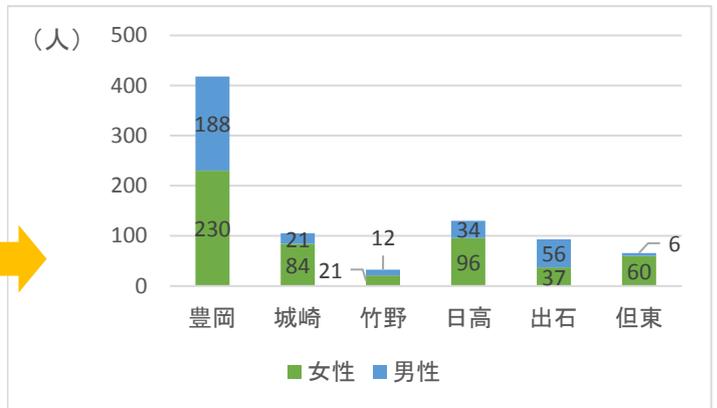
豊岡市の外国人住民数上位5カ国の推移（住民基本台帳）



豊岡市の外国人住民の現在

10年の変化 市の外国人住民は、2009年末の653人から、2019年末の845人へと、10年間で約1.3倍に増加し、人口の1%を占める（全国では、総人口の2.2%）。韓国・朝鮮や中国など東北アジア出身者が減少するが、一方でベトナム、フィリピン、インドネシアなど、東南アジア出身者が増加している。

地域別外国人住民数（住民基本台帳 2019年12月末）



外国人住民の居住地 人口の集中する豊岡だけでなく、城崎、日高、出石にも100人単位で住む。城崎、日高、但東では女性の割合が非常に高い。竹野は少ないが、城崎温泉との繋がりもあり、インバウンドの観光客が年間1,000人程度に増加している。

多様な在留資格・国籍 外国人住民を大きく区分すると、●技能実習生など、特定の職業や活動のため、1年～数年単位の期限で日本に住む人々と、●永住、定住などの資格をもち、長期に（または期限なく）日本に住むことが可能で、職業も選択できる人々がいる。

ここでは、前者を「外国人住民（短期）」、後者を「外国人住民（長期）」として捉え、「課題探索」視点から両者を総合的に考察する。市で近年増加するのは、外国人住民（短期）である。非アジア系住民も（短期）・（長期）の双方にいるが、数は少ない。

豊岡市の国籍・在留資格タイプ別外国人住民数（住民基本台帳 2019年11月30日）

	外国人住民（短期）				外国人住民（長期）			小計
	教育・専門職等	技能実習	特定活動・留学等	家族滞在	永住者・配偶者	定住者	特別永住	
ベトナム	21	183	12	2	14	0	0	232
中国	17	88	8	6	58	8	0	185
フィリピン	2	7	2	0	97	54	0	162
韓国・朝鮮	2	0	0	1	5	0	62	70
インドネシア	0	54	10	0	2	0	0	66
台湾	10	0	18	0	2	0	0	30
タイ	0	23	0	0	6	0	0	29
北米	9	0	0	2	4	0	0	15
中南米	1	0	0	0	4	2	0	7
豪州地域	3	0	0	0	3	0	0	6
ヨーロッパ	3	0	0	0	2	0	0	5
その他アジア	9	0	4	9	2	0	0	24
小計	77	355	54	20	199	64	62	831

注) 数字の単位は、「人」。

外国人住民：(短期)と(長期)

質問紙調査(郵送)の結果 18才以上のすべての外国人住民(702人)へ配布し(2019年6月)、272人(40%弱)分を回収できた。以下は、性別が「無回答」などの場合を除く、264人分の集計結果である。

	外国人住民(短期) 180人	外国人住民(長期) 84人
性別	おおよそ半々で、女性がすこし多い	女性が7割
年齢	20代:(男)8.5割・(女)7割	すべての世代にわたる
豊岡市に来たきっかけ	技能習得:(男)(女)8割	(女)結婚:6割 (男)技能習得:4割
豊岡市での居住期間	3年未満:(男)8割・(女)9.5割	(女)10年以上:5割 (男)3年未満:6割
世帯のかたち	友人や同僚と同居:(男)9.5割・(女)8割	(女)家族と同居:8割 (男)単身:3.5割
日本語の力	日常会話+できない:(男)7割・(女)5.5割	(女)日本人並に会話+それ以上:5割
地域自治会への参加	参加している:(男)3割・(女)1.5割	(女)参加:5割 (男)不参加:7割
地域情報の入手経路	①職場の同僚 ②インターネット ③同国人	①職場の同僚 ②近隣住民 ③同国人
日本人の友人	いない:(男)4.5割・(女)5割	いる+たくさんいる:(女)(男)8割程度
豊岡市の住みやすさ	住みやすい+とても——:(男)9割・(女)8割	住みやすい+とても——:(女)(男)8割
豊岡市での今後の居住予定	3年以上:(男)(女)2割程度	(女)10年以上:3.5割 (男)わからない:4割
就業上の地位	技能実習:(男)(女)7割	(女)パートなど:4割 (男)契約社員:5割
職場への不満	①給料 ②居住環境 ③日本語学習	①給料 ②労働時間 ③日本語学習(男性では①)
母国の家族への仕送り	している:(男)7.5割・(女)6.5割	している:(女)5.5割・(男)4.5割

事業所の外国人雇用

質問紙調査(郵送など)の結果
市内の1,640事業所へ配布し(2019年5月)、327ヶ所(約20%)から回収できた。内「外国人従業員あり」は40ヶ所であった。返送のなかった事業所は、雇用者がいない(個人商店等)などと推察される。

外国人従業員雇用の有無

地域	雇用 [実数(%)]	
	あり	なし
豊岡	22(55.0)	108(37.6)
城崎	7(17.5)	44(15.3)
竹野	2(5.0)	20(7.0)
日高	2(5.0)	54(18.8)
山石	2(5.0)	37(12.9)
但東	2(5.0)	15(5.2)
複数	2(5.0)	6(2.1)
不明	1(2.5)	2(0.7)
合計	40(100)	287(100)

外国人従業員のいる事業所(40ヶ所)

事業所の従業員総数	20人以上:5割 100人以上:1割
事業所の業種	漁業、製造業(食品除く)、宿泊業が多い
外国人の出身国	①ベトナム ②フィリピン ③インドネシア
外国人雇用開始時期	漁業:10以上前から それ以外:大半が10年以内
外国人の雇用形態	技能実習:6割、正社員・パート:各2割、インターン:1.5割
外国人の勤務	日「4-8時間」:6.5割 週「5日以上」:6割
外国人の福利厚生	住居、医療・保険、社内行事・活動:各7割
外国人の採用ルート	監理団体:5割 仲介業者:3割弱 ハローワーク:2割弱
外国人雇用の理由	人手不足:8.5割
外国人への満足度	非常に高い…満足:4.5割 ほぼ満足:5割
今後の外国人雇用予定	数を増やし雇用:3割 現状程度の雇用継続:5割
外国人雇用への支援策	(自由回答)日本語教育、住居の整備・確保、交通手段の整備・確保、行政手続きの支援、外国人相互交流の場の構築

外国人従業員のない事業所(287ヶ所)

事業所の従業員総数	1-4人が4割以上
人手不足の実感	建設と医療福祉:各7割 その他の業種:4-5割
今後の外国人雇用予定	人手不足感のある事業所でも、「予定なし」が8割
雇用していない理由	雇用の意志なし:3割 受入体制の未整備:1割
外国人雇用への支援策	支援が必要:5割 「採用予定なし」でも、4.5割が必要 (自由回答)日本語・日本文化習得、住環境、受入体制など

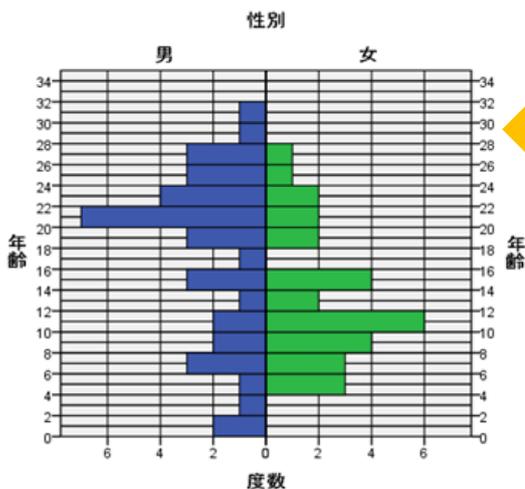
外国人住民（長期）の考察

「旧世代」と「新世代」 ニューカマーの外国人住民（長期）には、「旧世代」と「新世代」が存在する。前者は主に国際結婚による移住者（ほとんどは女性）である。日本人配偶者、子ども、場合により配偶者の親と同居しながら、市内に10年以上住む定着度の高い人々である。後者は、約5年以内に、国際結婚に限らず多様な契機で市内に移住した人々で、全体として流動性が高く、市外への転出の可能性も高い。

世代別にみた特徴

	旧世代	新世代
豊岡市居住期間	10年以上	5年未満
人数	27名	34名
割合	38.0	47.9
性別	ほぼ全員女性	男性4割(44.1)
他地域居住経験	直接豊岡に来る	他地域から転入
豊岡市に来た経緯	国際結婚	多様
ビザの種類	「永住者」	「定住者」ほか
定着/流動	定着	流動

子どもの性別・年齢別構成



外国人の子どもたち 質問紙調査では、外国人住民の子ども（日本居住者）についても調べた。該当者は大部分が外国人住民（長期）の子どもであり、ニューカマーでは、年齢が20歳代から幼児まで多世代にわたり（グラフ）、国籍により日本語能力に差があるなどしている。また、外国人の親（母親）と学校との連携には改善すべき点があるが、一方で親たちは、子どもを育てる場として日本を信頼している。

出身国・地域ごとの特徴 外国人住民（長期）には多様な国籍の人々が含まれるが、アジア系の比重が非常に高い。主には中国人、フィリピン人、韓国・朝鮮人、ベトナム人である。近年は日系フィリピン人の移住が急増して、フィリピン国籍者数がトップになっている。

（中国人） ほとんどが日本人と結婚した女性で、「旧世代」と「新世代」に属す。技能実習で来日後に結婚、中国の大都市で日本人と出会って結婚など経路は多様。中国式教育への評価も高い。

（フィリピン人） 女性の多くは「旧世代」で、豊岡市の国際結婚をリードし、地元で就労や子育てをする。男性の大半は「新世代」の日系フィリピン人である。工場で働くが、妻子帯同（予定も含む）者もいる。

（その他のアジア系） オールドカマーの韓国・朝鮮人は、配偶者選択を含めて日本人と強く繋がる。ベトナム人女性等は農村部に結婚移住し、子育て中。アジア系高学歴女性の結婚移住もある。

（非アジア系） 50人を超える日系ブラジル人が約20年前に工場等で働いていたが、今はほとんどいない。欧米系住民（長期）も一定数住むが、多くは日本人との国際結婚である。男性の結婚移住者も相当数ある。

「小さな世界都市 - Local & Global City-」の政策課題

◎共同研究による外国人住民イメージの刷新⇒政策課題の展開へ進める

（短期）経済的動機だけでなく、「自己実現」的動機で来豊した人も相当数ある

高齢化の進む地方社会に生きる「今時の若者」として向きあう

（長期）多様な文化的背景・語学能力をもつグローバル人材だが、活用が不十分

各自が能力を能動的に発揮できる環境を整備し、定住化を促進

◎共同研究における繋がりや情報共有の経験⇒実践的な取組の展開へ進める

市内の組織（行政、企業、団体、NPO等）・個人と大学が調査遂行のために協力・連携

<小さな世界都市>型「外国人住民支援ネットワーク」の構築